

研究課題名 腹部超音波検診の現状と発見癌の特徴

超音波検査は、超音波を用いるため患者に苦痛を与えず、さらに、X線検査と異なり被曝がなく、非侵襲的な検査法として繰り返し行うことが可能です。また、リアルタイムに得られる情報が豊富であることから、集団検診の場で活用されています。当財団の総合健診センターで人間ドック及び職域健診で腹部超音波検査を受診した延べ 23,477 名を対象に、腹部超音波検診の現状を把握し、生活習慣病対策や癌の早期発見のための対策型検診について検討することを目的に 2007 年から 2011 年までの 5 年間の結果を集計しました。

この研究により、腹部超音波検診の実態やおもな疾患（所見）に関連する生活習慣等が明らかになれば、保健指導に有用な情報を提供することができ、癌の早期発見のための対策型検診について提案ができます。

本研究における個人情報等の扱いは以下のとおりです。

1. 本研究はデータのみを収集する疫学研究であり、本研究のために新たに人体資料の採取は行いません。
2. 受診者の皆さまの個人情報を削除した上でデータの分析を行います。
3. 研究の成果は学会や学術雑誌等で公表する予定ですが、個人が特定できる情報を公表することはありません。
4. 本研究の主任研究者及び分担研究者は、本研究に関する利益相反はありません。

本研究にご自身のデータが利用されることについてご同意いただけない場合やお問い合わせ等につきましては、下記までご連絡ください。

問合せ先

診療部 田中 朋子

電話 043-246-8664 Fax043-246-8640

E-mail to-tanaka@kenko-chiba.or.jp